

インフルエンザ定点（小児科定点を含む）

インフルエンザ 報告数49件で、6月の206件から激減しています。阿蘇7件(定点当たり2.8)、御船9件(定点当たり1.8)が多いようです。

小児科定点

(全体傾向)

報告総数3,897件(前月比0.89、前年比0.70)でした。前月比、前年同月ともにやや少なくなっています。全体的に例年と同様の経過を取っています。

(疾患別傾向)

1. RSウイルス感染症 : 報告数22件、前月37件からは減少していますが、一年を通して報告が続いている中では最少でした。宇城から5件(定点あたり1.3)、菊池5件(同1.0)、八代4件(同1.0)の報告が目立ちます。年齢は0ヶ月から6か月が11件と過半数を占めています。
2. 咽頭結膜熱 : 報告数78件(前月比0.7、前年比0.3)と一昨年に似た動きです。有明からの報告が13件(定点あたり2.6)と多く、熊本36件(同2.3)、菊池11件(同2.2)、宇城8件(同2.0)が続いています。1歳を中心として0歳から2歳に報告があります。
3. A群溶連菌咽頭炎 : 報告数362件(前月比0.9、前年比0.4)です。昨年からすれば半減ですが、例年通りとも言えます。菊池51件(定点あたり10.2)、熊本153件(定点あたり9.6)、宇城38件(定点あたり9.5)に多いようです。3~6歳を中心として報告があります。例年並みであれば、これから減少すると考えられます。
4. 感染性胃腸炎 : 報告数1,704件(前月比0.8、前年比0.8)とほぼ例年並みの推移で減少傾向にあります。水俣を除き、各地から二桁~三桁の報告数があります。菊池448件(定点あたり89.6)が特に多く、山鹿102件(同51.9)、有明244件(同48.8)が多いようです。少ないのは、水俣3件(同1.5)、阿蘇17件(同8.5)、天草31件(同7.8)です。5歳以下の年齢区分では全て三桁の報告があります。
5. 水痘 : 報告数43件(前月比0.5、前年比0.5)と、報告は減少しました。定点当たりの報告が1.0以上あるのは、菊池7件(定点あたり1.4)、熊本21件(同1.3)と、水俣2件(同1.0)、人吉3件(同1.0)でした。年齢は0歳から14歳までと幅の広い流行です。報告数は減少していますが、2014年10月から定期接種になっている割には、報告数が多いので、各地区での接種率の検討が必要でしょう。阿蘇・御船からの報告はなく、有明・山鹿・宇城・天草・水俣からは、1~2件の報告でした。
6. 手足口病 : 報告数1,089件(前月比1.2、前年比1.1)と、昨年同様の推移で増加しています。特に多いのは、菊池300件(定点あたり60.0)です。水俣66件(同33.0)、山鹿50件(同25.0)で、以下熊本384件(同24.0)と続きます。阿蘇0件、御船5件(同1.7)以外は、県下から二桁以上の報告があります。1歳~4歳を中心としていますが、他の年齢でも報告は多いようです。原因ウイルスとして、Enterovirus type 71 を主として複数のウイルスが分離されています。
7. 伝染性紅斑 : 4件の報告が菊池2件、熊本と宇城から1件ずつありました。昨年から引き続き流行はないようです。
8. 突発性発疹 : 158件(先月比0.7、前年比0.7)と、やや減少しています。菊池38件(定点あたり7.6)、有明22件(同4.4)、山鹿8件(同4.0)に多く、阿蘇と御船からの報告はありませんでした。

9. ヘルパンギーナ : 報告数134件(前月比2.6、前年比0.3)で、例年より立ち上がりが緩徐なようです。天草53件(定点あたり13.3)・人吉22件(同7.3)が多いようです。
10. 流行性耳下腺炎 : 報告数31件(前月比1.7、前年比0.3)と、流行のない状況が続いています。有明11件(定点当たり2.2)、菊池7件(同1.4)と続いています。阿蘇・御船・八代・宇城・天草からの報告はありませんでした。0歳児を除く年齢層からの報告があります。予防接種による流行阻止が期待できますので、引き続き啓発が必要と考えます。

眼科定点

1. 急性出血性結膜炎 : 報告数1例(前月比一、前年同月1.0)、熊本から70歳以上に1件のみの報告です。
2. 流行性角結膜炎 : 報告数77件(前月比0.8、前年同月1.4)と前月よりも減少しています。熊本から67件の報告ですが、有明8件と有明地区からの報告が先月から増加しています。年齢別では20~39歳と50~70歳以上に多発していますが、乳幼児層にも増加傾向がうかがわれます。

STD定点

※平成25年1月から、定点医療機関数の見直しに伴い、定点医療機関が13医療機関から16医療機関に増えました。

1. 性器クラミジア感染症 :
報告数66件(前月比1.4、前年比1.4)で、前月比、前年比共に増加しています。男女別は、男性37件、女性29件で、男性に多く見られます。年齢別は、男性は15~70歳以上と幅広くみられます。女性は15~49歳に見られます。地域別は、熊本が44件、次いで八代11件、御船4件、有明3件、宇城2件、人吉、天草各1件でした。
2. 性器ヘルペスウイルス感染症 :
報告数26件(前月比1.4、前年比0.9)で前月比は増加し、前年比は減少しています。男女別は、男性18件、女性8件で、男性に多く見られます。年齢別は、男は20~70歳以上と幅広く見られます。女性も20歳~70歳以上と幅広くに見られます。地域別は、熊本16件、次いで八代、有明各3件、菊池2件、御船、宇城各1件でした。
3. 尖圭コンジローマ :
報告数12件(前月比3.0、前年比6.0)で、前月比、前年比ともに増加しています。男女別は、男性11件、女性1件で男性に多く見られます。年齢別は、男性は25歳~69歳に見られ、女性は25~29歳に見られます。地域別は熊本10件、次いで御船1件でした。
4. 淋菌感染症 :
報告数8件(前月比0.9、前年比0.5)で、前月比、前年比共に減少しています。男女別は、男性7件、女性1件でした。年齢別は、男性は20~69歳に見られ、女性は45~49歳にみられました。地域別は、熊本が4件、次いで有明2件、八代、天草各1件でした。

基幹定点

(月報分)

1. メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 :
報告数は20件(前月比:0.8、前年同月比:1.4、男女比:16/4)で減少傾向にあります。熊本地区(9)、人吉地区(3)、水俣地区(2)、有明地区(2)、山鹿・菊池・阿蘇・八代地区(1)と広範囲に認めます。1-4歳(2)もありますが、比較的全年齢で散見され、70歳以上(15)で集中して検出されました。
▼例年並みの報告数で推移しています。

2. ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：

報告数は5件（前月比：0.8、前年同月比：1.0、男女比：4/1）で減少傾向にあります。熊本地区(3)、有明地区(2)の報告でした。0歳(1)、1-4歳(2)、5-9歳(1)と70歳以上(1)でした。
▼例年並みの報告数で推移しています。

3. 薬剤耐性緑膿菌感染症：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-、男女比：-）でした。
▼H30.4月(1)以降、報告はありません。

(週報分)

1. 細菌性髄膜炎：

報告数は1件（前月比：-、前年同月比：-）でした。熊本地区(1)で0歳(1)でした。
▼例年並みの報告数で推移しています。

2. 無菌性髄膜炎：

報告数は4件（前月比：-、前年同月比：0.7）で増加傾向にあります。熊本地区(3)、有明地区(1)で1-4歳(2)、25-29歳(1)と70歳以上(1)でした。
▼例年に比べて報告数は少ないですが、夏から秋にかけての増加が懸念されます。

3. マイコプラズマ肺炎：

報告数は1件（前月比：1.0、前年同月比：0.1）で横向きに推移しています。熊本地区(1)からの報告で5-9歳(1)でした。
▼例年に比べて報告数も少なく横向きに推移しています。

4. クラミジア肺炎：

報告数は0件（前月比：-、前年同月比：-）で引き続き、報告はありませんでした。
▼H28年の発生以後、報告はありません。

5. 感染性胃腸炎（ロタウイルスによる）：

報告数は2件（前月比：0.2、前年同月比：0.1）で引き続き減少傾向にあります。熊本地区(2)の報告でした。1-4歳(1)、5-9歳(1)でした。
▼例年に比べ少ない報告数で推移し、減少傾向に転じています。

届け出対象感染症

1類感染症	： ありませんでした。	
2類感染症	： 結核	21件
3類感染症	： 腸管出血性大腸菌感染症	3件
4類感染症	： つつが虫病	1件
	： 日本紅斑熱	2件
	： レジオネラ症	1件
	： アメーバ赤痢	1件
5類感染症	： 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	5件
	： 侵襲性肺炎球菌感染症	5件
	： 梅毒	10件
	： 百日咳	9件